



太陽光やバイオマスなど、市内で再生可能エネルギーの導入が進む中、全国で太陽光発電事業を展開する株大林クリーンエナジーにより、平成25年10月から、市内初となる太陽光発電所が札内町で稼働しています。

6・1 鈴の敷地に発電パネル8千592枚を設置し、戸建て住宅500戸の年間使用量に相当する発電が可能です。

「予想以上に雨が多く、排水設備の維持で苦労していますが、おおね計画どおりの発電量です」と話すのは、所長の古川さん。発電された電気は電力会社に売られ、電気

発見のぼりべつの星!

企業編② (株)大林クリーンエナジー

の安定供給に役立てられます。隣接する日本工学院北海道専門学校に設置された表示板には発電情報が示され、環境授業や見学会など地域の環境学習の場としても利用されています。

「太陽光は永続的に利用でき、発電時に地球温暖化の主要原因である二酸化炭素をほとんど排出しません。太陽光は、まさに純国産エネルギーで、日本は世界でも有数の発電量を誇る太陽光発電の先進国です。優れた技術力を生かし、今後も安全・安心な電気をつくりたい」と、古川さんは力強く語ります。

【沿革】

平成24年7月 創業
平成24年10月 株式会社大林クリーンエナジー登録事業所設立

【株式会社大林クリーンエナジー登録事業所】

所在地 新川町2丁目5-1
電話番号 02022
事業内容 自然エネルギーを活用した発電事業

不用品ダイヤル市

申し込み・問い合わせは
登別消費者協会 (☎058307)

火～金曜日 (祝日を除く) 10時～16時

※1月6日(火)までは、年末年始のため休みます。
※申し込みは、市内に居住する方が対象で、登録期間は6カ月です。継続希望の場合は、再度申し込みください。

▶登録できないもの

衣類、食料品、貴金属、美術品などの高価なもの、自動車、バイク、船、傷みの激しいものやあつせん品としてふさわしくないもの

ゆずります (売ります)

●座卓用藤テーブル (直径88センチ・ガラス張り) ●日本人形 (高さ50センチ、高さ40センチ) ガラスケース入り各1体 ●ジューサー ●飯寿司用樽 (直径36センチ・高さ25センチ) ●スチール製米びつ付きレンジ台 (120×55×43.5センチ) ●鏡台 (引き出し付き・110×65×35センチ) ●テレビ台 (50×41×115センチ)、(灰色・100×42×40センチ) ●スチール製脚立 (23×47×88センチ) ●学生用革靴 (28センチ) ●布製陸上競技用靴 (26.5センチ) ●電子ピアノ ●カメラ (フラッシュ付き) ●大正琴 ●革靴 (黒色・24.5センチ・3足)、(黒色・26.5センチ)、(茶色・26.5センチ) ●囲碁セット ●スピーカー (39×27×26センチ) ●ウオーキングシューズ (茶色・26.5センチ) ●円筒用はしご (取り付けセット・184センチ) ●車のチェーン (65～13センチ) ●ムード音楽レコード (12枚セット) ●グレンミラーレコード (1枚) ●壁かけ鏡 (だ円形・80×50センチ) ●ゴルフセット (男子用) ●婦人用自転車 ●地球儀 (直径32～33センチ) ●健康器具 (室内自転車) ●健康ぶら下がり器 ●スチール製ストーブガード (87×62×65センチ) ●ポータブル石油ストーブ (SL-66G)

ゆずってください (買います)

●クラシック音楽オルゴール ●キーボード ●バイオリン (デッサン用) ●男子用靴 (黒、21・22センチ) ●男子用ワイシャツとネクタイ (身長120センチ) ●婦人用自転車 (26センチ) ●鉄瓶 ●灯油タンク (50リットル) ●白菊幼稚園制服 (男子用ズボン120センチ)、(冬用ブレザー) ●切手アルバム ●海星高校女子制服

ほん

今月の新着図書

市立図書館 ☎054324

ナオミとカナコ

奥田 英朗 著



望まない職場で憂鬱な日々を送る直美。夫の暴力に耐える加奈子。追いつめられた2人が下した選択とは。前代未聞の殺人劇が、今、動き始める…。

◇中村修二劇場

日経BP社特別編集班 編

◇陰陽師 螢火ノ巻

夢枕 獯 著

◇インデックス

菅田 哲也 著

=こどものほん=

マララ

マララ・ユスフザイ 著



女の子も学校に通う権利があると声をあげ続け、史上最年少でノーベル平和賞を受賞した少女マララの手記。貴重な写真も掲載する。

◇ピンクがとんだ日

村上 康成 作・絵

◇いかだののって

とよた かずひこ 作・絵

◇日本にしかない生き物図鑑

今泉 忠明 監修

※市立図書館では、毎月購入している本の全リストを差し上げています。ご利用ください。

地域だより

町内会のいきいき実践活動を紹介

津波避難計画を策定

青葉地区連合町内会（10町内会）は、市と協働で、防災研修会を開催しました。その際、津波警報発表時を想定し、各町内会の避難場所まで実際に歩き、危険箇所などを地図へ落とし込みました。

今後、この防災研修会の結果を集約して、青葉地区の『津波避難計画』を策定し、各家庭に配布することになります。

青葉地区連合町内会

会長 田淵 純勝



まちづくりの思いを込めて 市連町創立30周年「記念植樹」

市連合町内会（94町内会）の創立30周年を記念して、鉄南ふれあいセンターの前庭に、高さ2.5mの『ヤマボウシ』の苗木6本を植え、今後の組織の発展を願いました。

ことしの6月ごろには、白とピンクの花を付けたヤマボウシが咲きます。

また、2月に市民会館で記念式典・祝賀会を予定しています。

市連合町内会

会長 山田 正幸



災害に強い地域を目指して

新和会は、防災訓練を実施し、市消防署職員からビデオによる火災予防の講話を受けた後、消火器での消火訓練や災害時用トイレのテント組み立て訓練、携帯コンロ用ボンベで稼働する発電機の試運転を行いました。

数日後には、富士会館で火災や津波警報が発表された想定で、会館利用者全員で避難訓練も実施しました。

新和会

会長 島田 幸一



明るさを増した防犯灯

町内会30周年記念事業の一環として、町内会の防犯灯（街路灯）全79基を、市防犯灯設置事業補助金制度を活用してLED化しました。

光が照らす範囲が拡大したことで、町内会全体が以前より明るくなり、防犯対策になります。また、電気料金は、昨年の同月よりも削減でき、今後の節電効果も期待されます。

新生町2丁目町会

会長 渡辺 憲彦

